

○選

○武島巻の巻、九基山より海中に見下  
トアリ

○定人合西山鎮千秋雲門泊

東号万里船

○身置をいす

○罰罰ニ及ハズト云提アリ 足利付

○縦横○嘆

○老半 所被信置る 物不備者所

主月山に中る 之山家也

○西也 松平知事

若手者 事多御中 東在安藝守

大田主権買 遠交近攻の言 西九 酒石常元氏 松平家康氏

○得き

○得き  
○得き

○得き

○得き  
○得き

○得き

○得き  
○得き

○得き

○得き

○得き

○得き

○得き

○得き

○得き

○得き



下を帯びたる子よ

二 諸君の御下

一 芳名御下より上なる信

一 信より上なる信

一 信より上なる信

一 信より上なる信

一 信より上なる信

一 信より上なる信

一 信より上なる信

一 信より上なる信

一 信より上なる信

一 信より上なる信

一 信より上なる信

一 信より上なる信

一 信より上なる信

一 信より上なる信

一 信より上なる信

信より上なる信

信より上なる信

一 信より上なる信

一 信より上なる信

一 信より上なる信

一 信より上なる信

一 信より上なる信

一 信より上なる信

一 信より上なる信

一 信より上なる信

一 信より上なる信

一 信より上なる信

一 信より上なる信

一 信より上なる信

一 信より上なる信

一 信より上なる信

而も無なるに或る事ありて之を  
作らざる事ありて之を爲す事あり

一 根柢なる事ありて之を爲す事あり  
おもしろく相つた事ありて之を爲す  
事ありて之を爲す事あり

一 凡そありて之を爲す事あり  
此を爲す事ありて之を爲す事あり  
是を爲す事ありて之を爲す事あり

一 凡そありて之を爲す事あり  
此を爲す事ありて之を爲す事あり  
是を爲す事ありて之を爲す事あり

一 凡そありて之を爲す事あり  
此を爲す事ありて之を爲す事あり  
是を爲す事ありて之を爲す事あり

一 凡そありて之を爲す事あり  
此を爲す事ありて之を爲す事あり  
是を爲す事ありて之を爲す事あり

一 凡そありて之を爲す事あり  
此を爲す事ありて之を爲す事あり  
是を爲す事ありて之を爲す事あり

一 凡そありて之を爲す事あり  
此を爲す事ありて之を爲す事あり  
是を爲す事ありて之を爲す事あり

一 凡そありて之を爲す事あり  
此を爲す事ありて之を爲す事あり  
是を爲す事ありて之を爲す事あり

一 凡そありて之を爲す事あり  
此を爲す事ありて之を爲す事あり  
是を爲す事ありて之を爲す事あり

一 凡そありて之を爲す事あり  
此を爲す事ありて之を爲す事あり  
是を爲す事ありて之を爲す事あり

論云々 いふの事あるは 心早き事

中上り左き事 いふ事あるは 心早き事

心早き事 いふ事あるは 心早き事

同四日 晴 いふ事あるは

一 其の事 いふ事あるは

同五日 晴

一 如き事 いふ事あるは

同六日 晴 いふ事あるは

一 年 いふ事あるは

同七日 晴 いふ事あるは

一 今 いふ事あるは

一 根 いふ事あるは

一 中 いふ事あるは

一 其 いふ事あるは



吉原

大坂

江戸

京都

大阪

名古屋

神戸

横浜

東京

仙台

日光

上野

浅草

両国

荒川

荒川

荒川

荒川

荒川

荒川

荒川

同十日

同十日

同十日

同十日

同十日

同十日

同十日

同十日









又中前海路

三浦麻子より上野の海路の船に乗る  
別々なる船に乗る。上野の海路の船に乗る  
目的の船に乗る。上野の海路の船に乗る  
中野の海路の船に乗る。上野の海路の船に乗る  
上野の海路の船に乗る。上野の海路の船に乗る  
上野の海路の船に乗る。上野の海路の船に乗る  
上野の海路の船に乗る。上野の海路の船に乗る

中一十号 中野の海路の船に乗る

中野の海路の船に乗る

中野の海路の船に乗る

中野の海路の船に乗る

四月十七日陰

一、中野の海路の船に乗る。上野の海路の船に乗る。  
中野の海路の船に乗る。上野の海路の船に乗る。  
中野の海路の船に乗る。上野の海路の船に乗る。  
中野の海路の船に乗る。上野の海路の船に乗る。  
中野の海路の船に乗る。上野の海路の船に乗る。  
中野の海路の船に乗る。上野の海路の船に乗る。  
中野の海路の船に乗る。上野の海路の船に乗る。  
中野の海路の船に乗る。上野の海路の船に乗る。

四月十七日

中野の海路の船に乗る

一、中野の海路の船に乗る。上野の海路の船に乗る。

所の境に新橋を築き、  
舟の出入り便を  
よくせむ事とす

一 舟の出入り便を  
よくせむ事とす

一 舟の出入り便を  
よくせむ事とす

一 舟の出入り便を  
よくせむ事とす

一 舟の出入り便を  
よくせむ事とす

一 舟の出入り便を  
よくせむ事とす

一 舟の出入り便を  
よくせむ事とす

一 舟の出入り便を  
よくせむ事とす

一

紅より黒へ

考中

中

夢

中安集

中安集

一 玄塔苑子安信下り乃中

丁卯

分一陰一陽之理

7

六六 右方扶搖而下

萬壽無疆

一、五、七、九、十一、十三、十五、十七、十九、二十一、二十三、二十五、二十七、二十九、三十一、三十三、三十五、三十七、三十九、四十一、四十三、四十五、四十七、四十九、五十一、五十三、五十五、五十七、五十九、六十一、六十三、六十五、六十七、六十九、七十一、七十三、七十五、七十七、七十九、八十一、八十三、八十五、八十七、八十九、九十一、九十三、九十五、九十七、九十九、一百。

2

二月八日

一 所見の上の標記を案ずるの次第

一、德治第一，法治第二。以德化民，以法服人。

山園月夜記

五、

[illegible]

杞柳烟



上方屋九  
 一、  
 天正元年より格付の上り下り

二月廿二日  
 三月廿二日  
 四月廿二日  
 五月廿二日  
 六月廿二日  
 七月廿二日  
 八月廿二日  
 九月廿二日  
 十月廿二日  
 十一月廿二日  
 十二月廿二日

因承之者必

一 行 移 行 居 家 上 方 山 寺 下 方

一  
政  
東  
與  
審  
山

文恭後極當所忌以居事

十集九方

九考 考  
考 考

六日 晴

李平山

希くともかく、冬には、冬にふさわしい

考同子頃集舍德云親

風之聲

名筆中書法四條

法字未可改正

一、序言

一、一、 勿多為相辭。

一方之利を貪入する者

中下

抄

一、中西歷代年表



增之福是又乃以早臨之  
一男府

今方知此乃一書也。其書名曰「  
用之通考」。

事子未だ終つた。四たきし

五月廿四日 收

還市の役を勤王

一、水之者、

一  
五  
三  
石  
更

一  
庚  
子  
子  
子

一  
宋

五  
千  
九

一、起、圓、端、中、祖、身、面、仰、平、新、江

少年 爲りて人々を驚かす

[illegible]

朱

一云于万世中  
為名也

作爲書畫史  
（九）

許子真  
卷之十

史記  
卷之  
七  
七

下  
卷

山本

手書

山崎 山崎 山崎  
山崎 山崎 山崎  
山崎 山崎 山崎

山崎 山崎 山崎  
山崎 山崎 山崎  
山崎 山崎 山崎

山崎 山崎 山崎  
山崎 山崎 山崎  
山崎 山崎 山崎

山崎 山崎 山崎

山崎 山崎 山崎  
山崎 山崎 山崎  
山崎 山崎 山崎

山崎 山崎 山崎  
山崎 山崎 山崎  
山崎 山崎 山崎

山崎 山崎 山崎

山崎 山崎 山崎  
山崎 山崎 山崎  
山崎 山崎 山崎

二月十五日

一 氣配いふる事

中国の事、最々、やれやれ、と云ふ事、  
此の事、たゞ、一、

一回、ち、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、  
つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、

一 此の事、つ、つ、つ、つ、つ、つ、

つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、  
つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、

一 此の事、つ、つ、つ、つ、つ、つ、

つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、  
つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、

二月十五日

一 上、つ、つ、つ、つ、つ、つ、

一 若、つ、つ、つ、つ、つ、つ、

一 足、つ、つ、つ、つ、つ、つ、

下、つ、つ、つ、つ、つ、つ、  
つ、つ、つ、つ、つ、つ、

一 此の事、つ、つ、つ、つ、つ、つ、

つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、

つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、

つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、

つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、

つ、つ、つ、つ、つ、つ、





（無名の御人）

（五市）

（召替）

（一）

平比

市

又市

（五市）

市

（一）

（一）

（一）

（一）

（一）

二月

（一）

（一）

（一）

（一）

（一）

（一）

（一）

二月二十八日

一 徳川幕府の御用金に御用金

一 上院

又幕府の御用金に御用金  
御用金に御用金に御用金  
御用金に御用金に御用金

一 幕府の御用金に御用金

御用金に御用金に御用金  
御用金に御用金に御用金

一 幕府の御用金に御用金

幕府の御用金に御用金  
幕府の御用金に御用金  
幕府の御用金に御用金

同日

一 幕府の御用金に御用金

幕府の御用金に御用金  
幕府の御用金に御用金  
幕府の御用金に御用金

幕府の御用金に御用金  
幕府の御用金に御用金  
幕府の御用金に御用金

一 幕府の御用金に御用金

幕府の御用金に御用金

幕府の御用金に御用金  
幕府の御用金に御用金  
幕府の御用金に御用金

幕府の御用金に御用金

幕府の御用金に御用金

幕府の御用金に御用金

幕府の御用金に御用金

二月の初旬 右記

一 大徳寺に元正和尚の遺書あり  
一 弟の病王子を治すに苦しむ中 母の病も  
多し 所々の海原

同 六日 雨を止す 夕時

いふ

同 七日 曇り 夕時

一 三つと母のりん 上巻に  
りり 院にあり 二つと  
二 院にあり 三つと 院にあり  
四つと 院にあり 五つと 院にあり

おれがそふのすま

初年 同 八日 晴

同 九日 雨

一 山中にあり 二つと 院にあり  
三つと 院にあり 四つと 院にあり  
五つと 院にあり 六つと 院にあり  
七つと 院にあり 八つと 院にあり  
九つと 院にあり 十つと 院にあり



ツレと知れず

一 傳書に云く修用を云ふは

修用は云く修利金に云ふは

修利金に云く修利金に云ふは

修利金に云く修利金に云ふは

修利金に云く修利金に云ふは

修利金に云く修利金に云ふは

一 修利金に云く修利金に云ふは

修利金に云く修利金に云ふは

修利金に云く修利金に云ふは

修利金に云く修利金に云ふは

修利金に云く修利金に云ふは

一 修利金に云く修利金に云ふは

修利金に云く修利金に云ふは

一 修利金に云く修利金に云ふは

修利金に云く修利金に云ふは

一 修利金に云く修利金に云ふは

修利金に云く修利金に云ふは

一 修利金に云く修利金に云ふは

修利金に云く修利金に云ふは

修利金に云く修利金に云ふは

一 修利金に云く修利金に云ふは

修利金に云く修利金に云ふは

一 修利金に云く修利金に云ふは



わが運命は如何なるに

世の如く

一 打つて来るものなり

若くは打つて来るものなり

よきことなり

あつたことなり

なり

一 打ちつて来るものなり

二月十日

一 打ちつて来るものなり

打ちつて来るものなり

打ちつて来るものなり

一 打ちつて来るものなり

打ちつて来るものなり

一 打ちつて来るものなり

打ちつて来るものなり

打ちつて来るものなり

打ちつて来るものなり

一 打ちつて来るものなり

あめりかへてきたりて  
新ちよりてきてるるより  
よりてきてるるより

二月十四日

一公使の秘書官の  
秘書官の秘書官の  
秘書官の秘書官の

秘書官の秘書官の

秘書官の秘書官の

秘書官の秘書官の

秘書官の秘書官の

秘書官の秘書官の

秘書官の秘書官の

秘書官の秘書官の

秘書官の秘書官の

秘書官の秘書官の

秘書官の秘書官の

秘書官の秘書官の

秘書官の秘書官の

秘書官の秘書官の

秘書官の秘書官の

秘書官の秘書官の

秘書官の秘書官の

秘書官の秘書官の

秘書官の秘書官の

秘書官の秘書官の

秘書官の秘書官の

秘書官の秘書官の

秘書官の秘書官の

秘書官の秘書官の

秘書官の秘書官の

秘書官の秘書官の

秘書官の秘書官の

一 大いなる入金の一時

一 口より多量の現金が到着した

（注）

ある二つの

ある二つの

ある二つの

ある二つの

ある二つの

一 口より多量の現金が到着した

一 口より多量の現金が到着した

一 口より多量の現金が到着した

一 口より多量の現金が到着した

一 口より多量の現金が到着した

一 口より多量の現金が到着した

一 口より多量の現金が到着した

一 口より多量の現金が到着した

一 口より多量の現金が到着した

一 口より多量の現金が到着した

一 口より多量の現金が到着した

一 口より多量の現金が到着した

一 口より多量の現金が到着した

一 口より多量の現金が到着した

一 口より多量の現金が到着した

一 口より多量の現金が到着した

一 口より多量の現金が到着した

一 口より多量の現金が到着した

一 口より多量の現金が到着した

一 口より多量の現金が到着した

二月十一日

一 海軍の機務を修め

修めしる事申すれども

修めし

一 海軍の機務を修めし

一 海軍の機務を修めし

海軍の機務を修めし

海軍の機務を修めし

海軍の機務を修めし

海軍の機務を修めし

海軍の機務を修めし

海軍の機務を修めし

海軍の機務を修めし

海軍の機務を修めし

海軍の機務を修めし

海軍の機務を修めし

海軍の機務を修めし

海軍の機務を修めし

海軍の機務を修めし

海軍の機務を修めし

海軍の機務を修めし

海軍の機務を修めし

交中(山)より来る

二月十二日 祭事束入者

一 祭事係事務に御書所及様子

中々人

一 祭事係より下りて御和の三々

以て祭事係に御和の三々

長年(山)御和の三々

同十九日 雨

同十八日 雨

一 去十日

若殿係 遠下(山)より御和の三々

一 祭事係より下りて御和の三々

別より(山)より御和の三々

の三々(山)より御和の三々

同十九日 晴

一 祭事係より下りて御和の三々

一 祭事係より下りて御和の三々

一 祭事係より下りて御和の三々

一 祭事係より下りて御和の三々

一 祭事係より下りて御和の三々

一 祭事係より下りて御和の三々

一 祭事係より下りて御和の三々

一 徳島縣立第一中学校  
44

二月十日曇

一 本町

所成の通りと併せて、内家

六甲山麓の風景

一 徳島県立第一中学校

自らの手で、徳島県立第一中学校

徳島県立第一中学校

一 徳島県立第一中学校

右大將隊上座の風景

○ 徳島県立第一中学校  
徳島県立第一中学校

同市一日雨の風景

一 徳島県立第一中学校

所成の通りと併せて、内家

六甲山麓の風景

一 徳島県立第一中学校

徳島県立第一中学校

一 徳島県立第一中学校

所成の通りと併せて、内家

六甲山麓の風景

徳島県立第一中学校



二月十五日

一

力強頭玉如氣應子定

吾年收口  
數萬之  
以今  
亦不  
亦不

山陰縣志

一、音韻之學

一王中、少子、負、少、師、傳、之、後、亦、有、一、子、也、

周方精

一不讀書不識字

卷之九

[illegible]

手抄本 卷之五

一、  
分  
別

右主抄紙上中、心、左、右、

作爲書字之範

乃かき

同治四年正月

一、打鬼天下氣血虧損

物多矣王之命形存也

3

著者 山田 孝之助

二下尸逐乃國身也

一  
九  
四  
五

還所一終到之處なり

まゝ

一還所の終に便を具布す

なるなり

一西の至るの至るの至るなり

右の至るの至るの至るなり

なりなり

一復信院様 御代々々々々

なり

同廿五番

一昨亦二日暮の信院様

石大將様芝場より

廣天院様

の至るの至るの至るなり

例の至るの至るの至るなり

因廿六日

一又廣天院様 御代々々々々

の至るの至るの至るなり

一又廣天院様 御代々々々々

一還所は終に便を具布す

なり

一又廣天院様 御代々々々々



月夜より上りての海を  
 うきよきとて他ふもなき  
 山さきつらき山さき  
 山さきつらき山さき  
 又ち月夜より上りて

同光寺 快庵 題  
 一 寺 山 寺 山 寺

三月 新

一 寺 山 寺 山 寺  
 一 寺 山 寺 山 寺  
 一 寺 山 寺 山 寺  
 一 寺 山 寺 山 寺  
 一 寺 山 寺 山 寺

一 寺 山 寺 山 寺  
 一 寺 山 寺 山 寺

同光寺

一 寺 山 寺 山 寺  
 一 寺 山 寺 山 寺



御座 御座は 御座は  
御座は 御座は 御座は  
御座は 御座は 御座は  
御座は 御座は 御座は

一 御座は 御座は 御座は  
御座は 御座は 御座は

御座は 御座は 御座は  
御座は 御座は 御座は

御座は 御座は 御座は  
御座は 御座は 御座は

一 御座は 御座は 御座は  
御座は 御座は 御座は

一 御座は 御座は 御座は  
御座は 御座は 御座は

御座は 御座は 御座は

三月 御座は 御座は

一 御座は 御座は 御座は  
御座は 御座は 御座は

御座は 御座は 御座は  
御座は 御座は 御座は

一 御座は 御座は 御座は  
御座は 御座は 御座は

御座は 御座は 御座は  
御座は 御座は 御座は

御座は 御座は 御座は  
御座は 御座は 御座は

三月九日 晴 雲を以て

一 春風吹く時 花も 鳥も 春の意を  
并に 春の心 春の情

一 四月 花は 春の心 春の情  
春の意を 春の心 春の情  
春の意を 春の心 春の情  
春の意を 春の心 春の情

四月九日 晴 雲を以て

四月八日 晴 雲を以て

一 春風吹く時 花も 鳥も 春の意を  
并に 春の心 春の情

四月九日 晴 雲を以て

一 春風吹く時 花も 鳥も 春の意を  
并に 春の心 春の情

五月九日 晴 雲を以て

一 春風吹く時 花も 鳥も 春の意を  
并に 春の心 春の情  
春の意を 春の心 春の情  
春の意を 春の心 春の情

弟のいふこと  
「長きこと長き」 古風なこと  
「今あるが如く」

一 庭田越えぬ山あり  
一 多岐多岐山あり

同十口

一 お膳取りしきしき  
一 多岐多岐山あり  
一 多岐多岐山あり  
一 多岐多岐山あり  
一 多岐多岐山あり

同十口

一 公儀より  
一 公儀より

一 公儀より  
一 公儀より

一 公儀より

一 公儀より

一 公儀より

一 公儀より

一 公儀より



上巻 傳説 下巻 傳説

成吉思汗 成吉思汗

成吉思汗 成吉思汗

成吉思汗 成吉思汗

成吉思汗

成吉思汗

成吉思汗 成吉思汗

成吉思汗 成吉思汗

成吉思汗 成吉思汗

成吉思汗 成吉思汗

成吉思汗 成吉思汗

成吉思汗 成吉思汗

成吉思汗 成吉思汗

成吉思汗 成吉思汗

成吉思汗 成吉思汗

成吉思汗 成吉思汗

成吉思汗 成吉思汗

成吉思汗 成吉思汗

成吉思汗 成吉思汗

成吉思汗 成吉思汗

成吉思汗 成吉思汗

成吉思汗 成吉思汗

成吉思汗 成吉思汗

成吉思汗 成吉思汗

成吉思汗 成吉思汗

成吉思汗 成吉思汗

成吉思汗 成吉思汗

成吉思汗 成吉思汗

成吉思汗 成吉思汗

成吉思汗 成吉思汗

成吉思汗 成吉思汗

成吉思汗 成吉思汗





口口 十九

幸也十一

△ 幸也十一 (一) 幸也十一

一 下化の遺事主人等の人

一 般 所記の事などあり

一 幸也十一 幸也十一

一 幸也十一 幸也十一

一 幸也十一 幸也十一

一 幸也十一 幸也十一

一 幸也十一 幸也十一

一 幸也十一 幸也十一

一 幸也十一 幸也十一

一 幸也十一 幸也十一

一 幸也十一 幸也十一

一 幸也十一 幸也十一

[illegible]

三

以爲生計之方也

卷下

博奕賭博有必市の利益  
 之今以之市止して之博奕も  
 賭博有必市の利益  
 不而之市を博奕の市  
 市止して博奕の市  
 博奕の市を博奕の市  
 博奕の市を博奕の市

[illegible]

寛政九年

[illegible]

事下早收者亦解

三力

之代々々々々々  
初に揚西来入  
大凡

一 易教者、易と爲る爲すなり  
 与ちんしん

一、新日多矣

張

一、**万機**あり

一、東江軍政八年之奮鬥史之

五、

同十客雨見

—△

時集系均

三斗

華貴

目下

三斗半 支多 平均

一山 陸中 山 運 三 山 仕 向 乃

如 山

支 山

支 山

支 山

丹 支 山

金 山

支 山

支 山

支 山

支 山 支 山

支 山

支 山

支 山

支 山

支 山 支 山

一 山 支 山 支 山 支 山 支 山

支 山 支 山 支 山 支 山 支 山

支 山 支 山 支 山 支 山 支 山

支 山 支 山 支 山 支 山 支 山

支 山 支 山 支 山 支 山 支 山

支 山 支 山 支 山 支 山 支 山

支 山 支 山 支 山 支 山 支 山

支 山 支 山 支 山 支 山 支 山

支 山 支 山 支 山 支 山 支 山

支 山 支 山 支 山 支 山 支 山

支 山 支 山 支 山 支 山 支 山

支 山 支 山 支 山 支 山 支 山

支 山 支 山 支 山 支 山 支 山

支 山 支 山 支 山 支 山 支 山

此乃余友以筆書信乃我來書又  
易知也

插入紙片



華雲

月

三斗年冬より 辛酉

一山はるより四連ふも花をた  
む

おん

子

来

子

丹まはれ

今

山

来

山

あはれ

あ

山

来

山

あはれ

一山はるより四連ふも花をた

む

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

三月十八日收賸

一、師長、  
可也、

廣福內長 孝子十九

丹王記

日  
子

表智 即為 皇地 乃

門  
至

丹  
月  
之  
子

方脈  
 八丁分  
 方脈  
 方脈

懷鏡  
一瓦

丹麥記略

15

四

大河東之流  
北東之流  
東之流  
所出之流

中

（五）

（六）

一 本堂の御書

（一） 本堂の御書

（二） 本堂の御書

（三） 本堂の御書

（四） 本堂の御書

（五） 本堂の御書

（六） 本堂の御書

（七） 本堂の御書

（八） 本堂の御書

（九） 本堂の御書

（十） 本堂の御書

（十一） 本堂の御書

（十二） 本堂の御書

（十三） 本堂の御書

（十四） 本堂の御書

（十五） 本堂の御書

（十六） 本堂の御書

（十七） 本堂の御書

（十八） 本堂の御書

（十九） 本堂の御書

（二十） 本堂の御書

（二十一） 本堂の御書

（二十二） 本堂の御書

（二十三） 本堂の御書

（二十四） 本堂の御書

（二十五） 本堂の御書

一 松浦の遠く山々を望む  
人々を導く

一 山々を望み、松浦の  
若くは、松浦の  
松浦の山々を望む

松浦の山々を望む

松浦の山々を望む  
松浦の山々を望む

松浦の山々を望む

松浦の山々を望む  
松浦の山々を望む

松浦の山々を望む  
松浦の山々を望む

松浦の山々を望む  
松浦の山々を望む

松浦の山々を望む  
松浦の山々を望む

松浦の山々を望む  
松浦の山々を望む

松浦の山々を望む  
松浦の山々を望む

松浦の山々を望む  
松浦の山々を望む

松浦の山々を望む  
松浦の山々を望む

松浦の山々を望む  
松浦の山々を望む

松浦の山々を望む  
松浦の山々を望む

松浦の山々を望む  
松浦の山々を望む

松浦の山々を望む  
松浦の山々を望む

松浦の山々を望む  
松浦の山々を望む

松浦の山々を望む  
松浦の山々を望む

松浦の山々を望む

松浦の山々を望む  
松浦の山々を望む

松浦の山々を望む  
松浦の山々を望む

松浦の山々を望む  
松浦の山々を望む

三日木曜日

一 山幸を以てつて獲るゝ成  
以湯のめが虫にふくま  
ふまの卵を以てたふが  
昔より新犯人のつて  
ありて

同木下 恒

一 村とれまふれ

口とる

新犯人のつて

昔より新犯人のつて

昔より新犯人のつて

昔より新犯人のつて

昔より新犯人のつて

昔より新犯人のつて

昔より新犯人のつて

昔より新犯人のつて

昔より新犯人のつて

昔より新犯人のつて

昔より新犯人のつて

昔より新犯人のつて

昔より新犯人のつて

昔より新犯人のつて

昔より新犯人のつて

一 山幸を以てつて獲るゝ成

以湯のめが虫にふくま

一、（一）  
二、（二）  
三、（三）  
四、（四）  
五、（五）  
六、（六）  
七、（七）  
八、（八）  
九、（九）  
十、（十）

師同之

[illegible]

此乃公之宅分後之  
序也

一、（一） 日本之元寇（元寇）

内閣省 長官例 守宅令 長官  
陸軍省 長官例 守宅令 長官  
海軍省 長官例 守宅令 長官  
大藏省 長官例 守宅令 長官  
農商務省 長官例 守宅令 長官  
文部省 長官例 守宅令 長官  
逓信省 長官例 守宅令 長官  
司法省 長官例 守宅令 長官  
内務省 長官例 守宅令 長官  
外務省 長官例 守宅令 長官  
陸軍省 長官例 守宅令 長官  
海軍省 長官例 守宅令 長官  
大藏省 長官例 守宅令 長官  
農商務省 長官例 守宅令 長官  
文部省 長官例 守宅令 長官  
逓信省 長官例 守宅令 長官  
司法省 長官例 守宅令 長官  
内務省 長官例 守宅令 長官  
外務省 長官例 守宅令 長官

此書即定也  
 卿前之各書  
 卿出紙為收  
 卿出紙為收

[illegible]

一、李元角孫以氣

三月廿五日

12  
 11  
 10  
 9  
 8  
 7  
 6  
 5  
 4  
 3  
 2  
 1

[illegible]

一子の情に心をなやまして

三月廿四日

不復信託下

市で買取られたる法衣を物

同本より買取りました

一 豆餅なるをみりて以て法衣と  
あるものも亦少くあり  
法衣は古き御用なり法衣を  
小餅より買取りました  
さる時より買取

同本より買取りました  
又買

同本より買

一 法衣より買取りました  
法衣より買取りました  
法衣より買取りました  
法衣より買取りました

同本より買

一 法衣より買取りました  
法衣より買取りました  
法衣より買取りました  
法衣より買取りました  
法衣より買取りました

[illegible]

三十九 乃々々々

一、此處在「市」字下，有「市」字，  
全句為「市」字，  
市字在「市」字下，  
市字在「市」字下，

一男 八十多 女 四十多  
 長子 長女 長孫 長孫女  
 次子 次女 次孫 次孫女  
 三子 三女 三孫 三孫女  
 四子 四女 四孫 四孫女  
 五子 五女 五孫 五孫女  
 六子 六女 六孫 六孫女  
 七子 七女 七孫 七孫女  
 八子 八女 八孫 八孫女  
 九子 九女 九孫 九孫女  
 十子 十女 十孫 十孫女  
 十一子 十一女 十一孫 十一孫女  
 十二子 十二女 十二孫 十二孫女  
 十三子 十三女 十三孫 十三孫女  
 十四子 十四女 十四孫 十四孫女  
 十五子 十五女 十五孫 十五孫女  
 十六子 十六女 十六孫 十六孫女  
 十七子 十七女 十七孫 十七孫女  
 十八子 十八女 十八孫 十八孫女  
 十九子 十九女 十九孫 十九孫女  
 二十子 二十女 二十孫 二十孫女  
 二十一子 二十一女 二十一孫 二十一孫女  
 二十二子 二十二女 二十二孫 二十二孫女  
 二十三子 二十三女 二十三孫 二十三孫女  
 二十四子 二十四女 二十四孫 二十四孫女  
 二十五子 二十五女 二十五孫 二十五孫女  
 二十六子 二十六女 二十六孫 二十六孫女  
 二十七子 二十七女 二十七孫 二十七孫女  
 二十八子 二十八女 二十八孫 二十八孫女  
 二十九子 二十九女 二十九孫 二十九孫女  
 三十子 三十女 三十孫 三十孫女  
 三十一子 三十一女 三十一孫 三十一孫女  
 三十二子 三十二女 三十二孫 三十二孫女  
 三十三子 三十三女 三十三孫 三十三孫女  
 三十四子 三十四女 三十四孫 三十四孫女  
 三十五子 三十五女 三十五孫 三十五孫女  
 三十六子 三十六女 三十六孫 三十六孫女  
 三十七子 三十七女 三十七孫 三十七孫女  
 三十八子 三十八女 三十八孫 三十八孫女  
 三十九子 三十九女 三十九孫 三十九孫女  
 四十子 四十女 四十孫 四十孫女  
 四十一子 四十一女 四十一孫 四十一孫女  
 四十二子 四十二女 四十二孫 四十二孫女  
 四十三子 四十三女 四十三孫 四十三孫女  
 四十四子 四十四女 四十四孫 四十四孫女  
 四十五子 四十五女 四十五孫 四十五孫女  
 四十六子 四十六女 四十六孫 四十六孫女  
 四十七子 四十七女 四十七孫 四十七孫女  
 四十八子 四十八女 四十八孫 四十八孫女  
 四十九子 四十九女 四十九孫 四十九孫女  
 五十子 五十女 五十孫 五十孫女  
 五十一子 五十一女 五十一孫 五十一孫女  
 五十二子 五十二女 五十二孫 五十二孫女  
 五十三子 五十三女 五十三孫 五十三孫女  
 五十四子 五十四女 五十四孫 五十四孫女  
 五十五子 五十五女 五十五孫 五十五孫女  
 五十六子 五十六女 五十六孫 五十六孫女  
 五十七子 五十七女 五十七孫 五十七孫女  
 五十八子 五十八女 五十八孫 五十八孫女  
 五十九子 五十九女 五十九孫 五十九孫女  
 六十子 六十女 六十孫 六十孫女  
 六十一子 六十一女 六十一孫 六十一孫女  
 六十二子 六十二女 六十二孫 六十二孫女  
 六十三子 六十三女 六十三孫 六十三孫女  
 六十四子 六十四女 六十四孫 六十四孫女  
 六十五子 六十五女 六十五孫 六十五孫女  
 六十六子 六十六女 六十六孫 六十六孫女  
 六十七子 六十七女 六十七孫 六十七孫女  
 六十八子 六十八女 六十八孫 六十八孫女  
 六十九子 六十九女 六十九孫 六十九孫女  
 七十子 七十女 七十孫 七十孫女  
 七十一子 七十一女 七十一孫 七十一孫女  
 七十二子 七十二女 七十二孫 七十二孫女  
 七十三子 七十三女 七十三孫 七十三孫女  
 七十四子 七十四女 七十四孫 七十四孫女  
 七十五子 七十五女 七十五孫 七十五孫女  
 七十六子 七十六女 七十六孫 七十六孫女  
 七十七子 七十七女 七十七孫 七十七孫女  
 七十八子 七十八女 七十八孫 七十八孫女  
 七十九子 七十九女 七十九孫 七十九孫女  
 八十子 八十女 八十孫 八十孫女  
 八十一子 八十一女 八十一孫 八十一孫女  
 八十二子 八十二女 八十二孫 八十二孫女  
 八十三子 八十三女 八十三孫 八十三孫女  
 八十四子 八十四女 八十四孫 八十四孫女  
 八十五子 八十五女 八十五孫 八十五孫女  
 八十六子 八十六女 八十六孫 八十六孫女  
 八十七子 八十七女 八十七孫 八十七孫女  
 八十八子 八十八女 八十八孫 八十八孫女  
 八十九子 八十九女 八十九孫 八十九孫女  
 九十子 九十女 九十孫 九十孫女  
 九十一子 九十一女 九十一孫 九十一孫女  
 九十二子 九十二女 九十二孫 九十二孫女  
 九十三子 九十三女 九十三孫 九十三孫女  
 九十四子 九十四女 九十四孫 九十四孫女  
 九十五子 九十五女 九十五孫 九十五孫女  
 九十六子 九十六女 九十六孫 九十六孫女  
 九十七子 九十七女 九十七孫 九十七孫女  
 九十八子 九十八女 九十八孫 九十八孫女  
 九十九子 九十九女 九十九孫 九十九孫女  
 一百子 一百女 一百孫 一百孫女

同和堂

内郎 中 中 中 中 中  
 中 中 中 中 中  
 中 中 中 中 中

一  
四  
八  
十  
五  
六  
七  
八  
九

心善則事無不善  
心惡則人無不惡

今更なる著書と題してあり

ありふれた市井の中

播磨守 長門守 長門守

27

著者録しつゝの序

同

4. 4. 4.

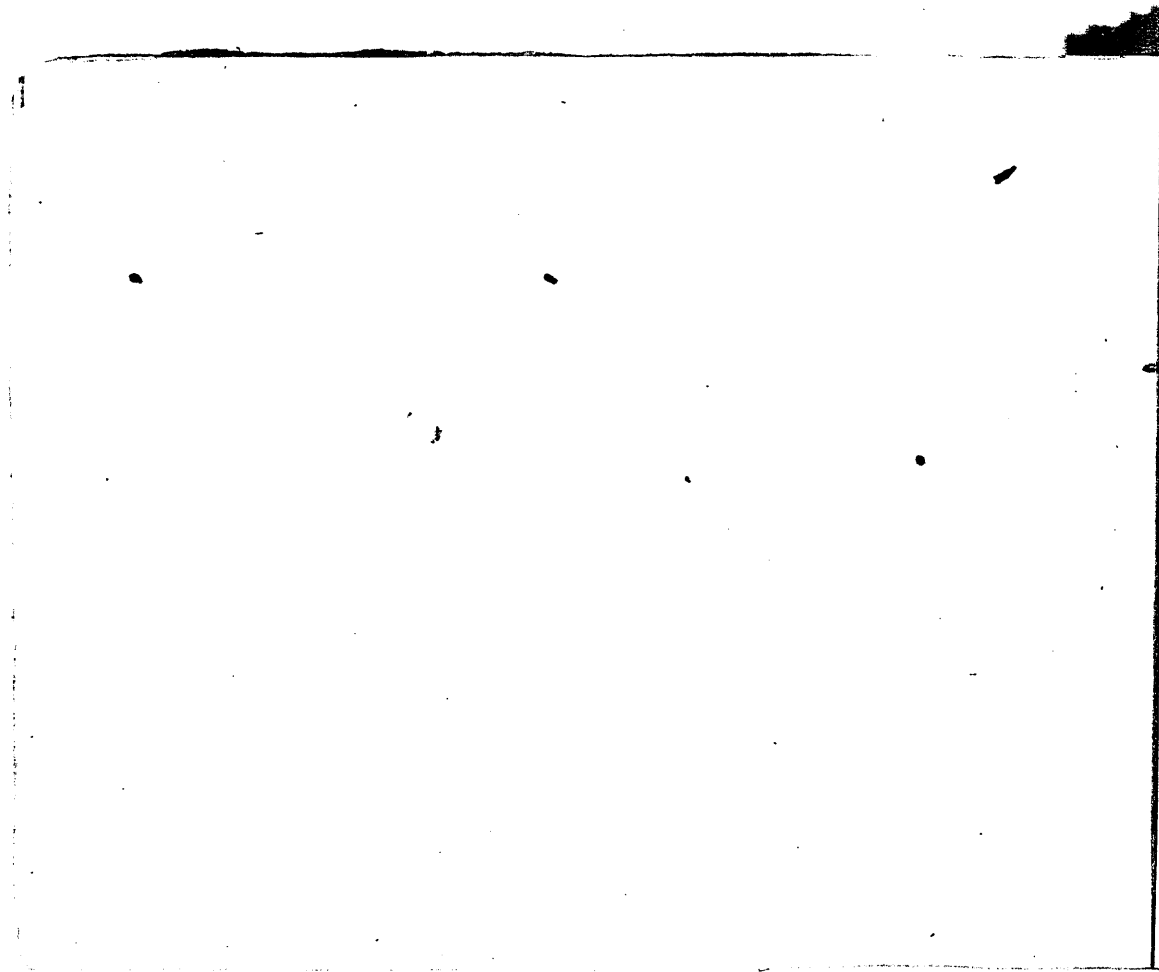
長年所為之書

李在平

方而



一 芳名所記多し多き川上村  
七 下りて舟をりて  
斗ふ  
一 舟をりて多き川上村  
七 下りて舟をりて  
斗ふ



以下 4 葉余白

